

ITSコネクト対応車載機の緊急車両への導入及び プローブ情報を活用した取組について

(豊田市交通まちづくり推進協議会)

豊田市は、交通まちづくりに関する計画「豊田市交通まちづくりビジョン2040・行動計画(2016-2020)」を策定し、『人々の暮らしやすさ』や『まちの魅力・活気・交流』を高め、人と環境にやさしい交通まちづくりを目指している。安全・安心に関する事業として本計画に位置付け推進している主な二つの取組(ITSコネクトの普及促進・プローブ情報の活用)を以下に紹介する。

【ITSコネクト対応車載機の緊急車両への導入について】

○この取組を行うことにした背景/理由

緊急車両専用のITSコネクト車載器(発信機)を救急自動車に導入することで、緊急走行時における救急自動車の事故防止及び走行時間の短縮を図るため。

○ITSコネクトとは

ITS専用周波数(760MHz帯)による路車間通信(右折時注意喚起等)や車車間通信(通信利用型レーダークルーズコントロール・緊急車両存在通知等)を活用した運転支援システムのことである。



○システム構築/サービス提供開始

2016年度末までに豊田市消防本部が所有する救急自動車(全21台)へ緊急車両専用のITSコネクト車載器(発信機)を導入する。導入した救急自動車から、サービスの提供を開始(2016年7月～)している。

○特徴(緊急車両存在通知の機能)

緊急車両専用のITSコネクト車載機(発信機)を搭載した救急自動車が緊急走行した際に、周辺の一般車両(ITSコネクト搭載車)のドライバーに救急自動車の進行方向と距離を、ブザー音と画面表示で通知する。

【新型プリウスのメータ内ディスプレイ】



○その他

救急自動車は、日常的に救命救急センターへの搬送等、市町村区域を越えて走行する。また、大規模災害時では、救急自動車に限らず様々な緊急自動車が応援のために市町村や都道府県域を越えて走行することになる。

そのため、広域の緊急自動車にITSコネクトが導入されると、よりITSコネクトの効果が活かされるため、官民が連携してITSコネクト搭載車両の普及促進を図る必要がある。

なお、豊田市の救急自動車には心電図映像伝送システムなどの精密機器が設置されており、それらの精密機器に電波障害等の支障がないことを確認した上で導入している。

【プローブ情報を活用した交通安全対策に関する取組について】

○この取組を行うことにした背景/理由

豊田市では、プローブ情報をもとに抽出した交通事故が発生する可能性がある危険か所に対して交通安全対策を早期に実施することにより、交通事故発生を未然防止を図るため。

○プローブ情報とは

プローブ情報とは、車両から通信機やカーナビ等を通して得られる位置や速度などの車両走行データのことである。

○取組内容

2015年度に、市内におけるABS作動多発地点及び高車速での停止エリア進入多発地点を、プローブ情報を活用することで抽出し、交通事故対策か所の選定及び対策内容の検討を行った。2016年度にはその選定か所に注意喚起標識の設置や赤塗舗装による強調を施し、事故対策を行った。

【対策実施後】



今後は、対策後におけるABS作動数及び高車速での停止エリア進入数を対策前と比較することで対策の効果検証を行う。またその結果から、有効性のある事故対策を他所にも積極的に実施することで交通安全対策を進めるとともに、その情報を他市等に発信することで全国の交通事故件数減少に役立てていく。